

# 事業実施報告

## 平成 29 年度入学生の意識調査の結果

### 目 次

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| <b>I. 意識調査の概要</b>            | … 1 |
| 1. 事業趣旨                      |     |
| 2. 調査実施時期                    |     |
| 3. 調査方法                      |     |
| 4. 調査回収数                     |     |
| 5. 調査項目                      |     |
| <b>II. 意識調査の項目ごとに見る学生の意識</b> |     |
| 1. 基礎的な項目から見る                | … 2 |
| 2. 卒業後の就職に関係する項目から見る         | … 2 |
| (1) 就職意識について                 |     |
| (2) 大分県出身者の就職意識について          |     |
| (3) 「大分を創る科目」の興味・関心について      |     |
| 3. 大学での学びの期待に関係する項目から見る      | … 5 |
| 4. 大学での興味ある授業形式に関係する項目から見る   | … 5 |
| <b>III. まとめ</b>              | … 6 |

平成 29 年 4 月

大分大学 COC+推進機構

## I. 意識調査の概要

### 1. 事業趣旨

COC+事業は、県内大学等及び企業・自治体との実質的かつ機動的な連携協働体制の下で、大分を創る人材を育成する教育の充実と、より高度な地域創生教育のカリキュラムを構築・実施することにより、地域志向の意欲と態度を養成し、地域課題を解決し地域創生の牽引者として活躍できる人材の育成を目指している。その取組をとおして、大分県地域においてリーダーシップや業種を超えた異分野連携力を発揮し、大分県の経済・社会の活性化に貢献できる「時代を切り開くイノベーション能力を持った人材」を輩出するとともに、そうした学生の県内就職率52%を目指すものである。

大分大学においては、大分を創る人材を育成するために、教養教育において「大分を創る科目」を128科目選定し、平成29年度は93科目を開講して、卒業要件として1科目2単位の履修を義務付け、早期に全ての学生が「大分を創る科目」を履修することとなっている。また、準正課的教育としてのインターンシップ関連事業を行うなどして、大分地域志向の教育を行うこととしている。本意識調査の結果については、入学時の意識に関するデータ整理の報告のみとし、2年次の後期（教養教育科目の履修終了時）修了時に調査する2年間の学修の成果を考察する際の基礎データとすることとしている。

### 2. 調査実施時期：平成29年4月入学時

### 3. 調査方法

学部ごとの入学ガイダンスの際に、大分大学アドミッションセンターが行う「新入生アンケート調査」の項目として実施した。

### 4. 調査回収数：1,100名（母数：1,102名）

教育学部：137名　経済学部：294名　医学部：171名　理工学部：389名  
福祉健康科学部：106名

### 5. 調査項目

#### （1）基礎的な項目

所属学部、出身地（出身高校）

#### （2）卒業後の就職に関することについて

#### （3）大学での学びの期待について

#### （4）大学での興味ある授業形式について

## II. 意識調査の項目ごとに見る学生の意識

### 1. 基礎的な項目から見る

図1-①は、平成29年度入学者の回答者（以下「入学者」という。）の学部別の入学者数の割合である。平成29年度に改組した理工学部が35.4%と最も多く、次いで経済学部が26.7%、医学部が15.5%、平成28年度に改組した教育学部が12.5%、平成28年度新設の福祉健康科学部が9.6%となっている。

図1-②は、入学者の出身県（地域）別の割合を示したものである。

大分県出身が37.2%、大分県以外の九州・沖縄地域の出身が39.4%であり、九州・沖縄全体で76.6%となっている。

図1-① 学部別の入学者数

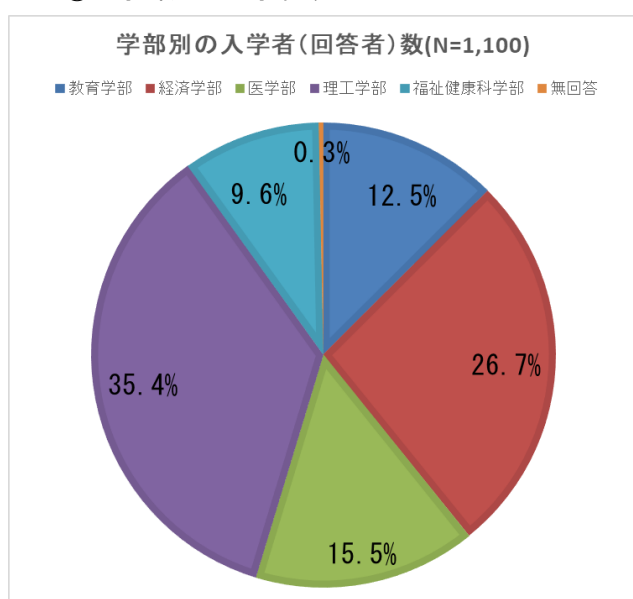
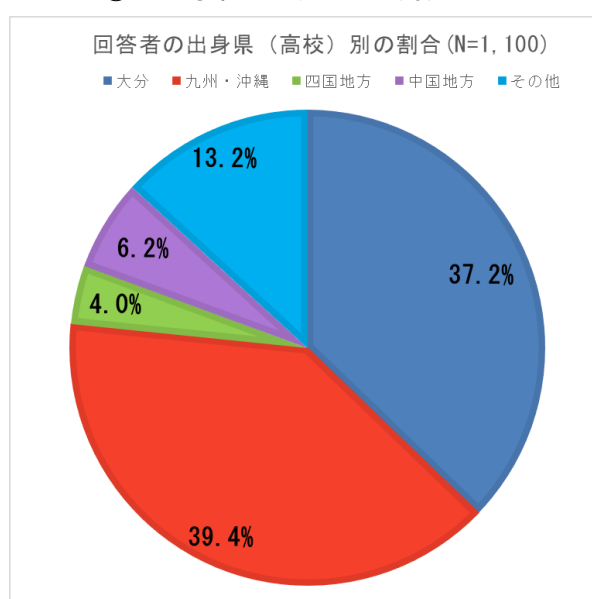


図1-② 出身県（地域）別の割合



### 2. 卒業後の就職に関する項目から見る

#### (1) 就職意識について

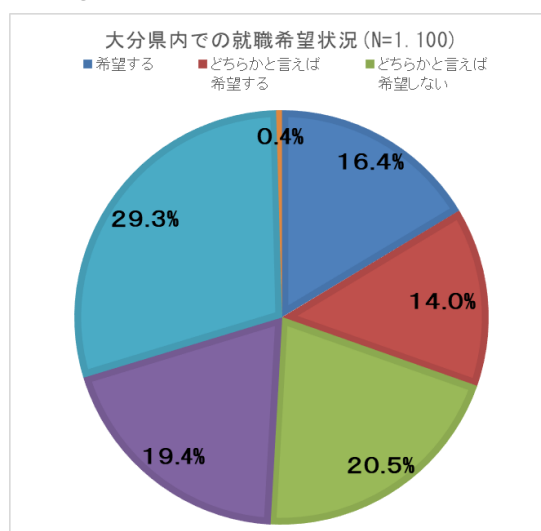
図2-①は、大分県内での就職希望の状況を示したものである。

「希望する」が16.4%、「どちらかと言えば希望する」が14.0%であり、合計すると30.4%が大分県内での就職を希望していることがわかる。「どちらかと言えば希望しない」の20.5%と、「希望しない」の19.4%の合計で39.9%が大分県内での就職を希望していないこともわかる。「未定」が29.3%で、平成28年度（15.0%）と比較して増加している。

図2-②は、大分県での就職希望状況を学部別に示したものである。

教育学部と医学部はほぼ50%であるが、他の3学部は

図2-① 大分県内での就職希望の状況



30%以下である。

図 2-② 学部別の大分県内での就職希望状況

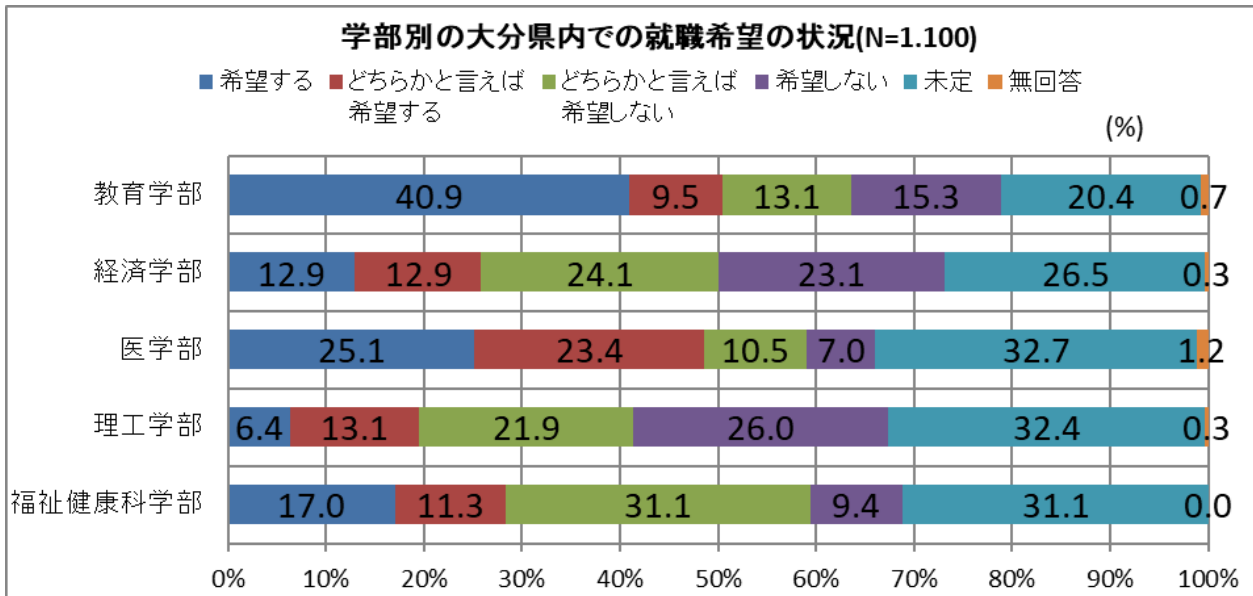
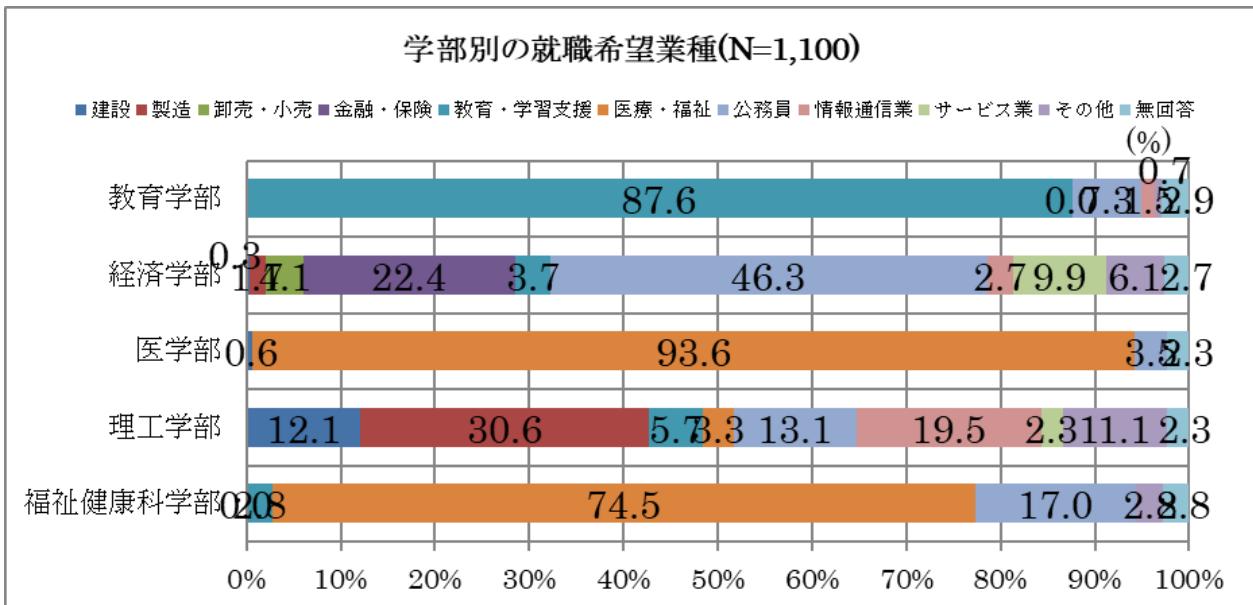


図 2-③は就職を希望する業種の割合を学部別に示したものである。

学部の特性から希望する業種が選定されていると考えられ、医療・福祉、公務員、教育・学習支援が多いが、全体としては多岐にわたっている。

図 2-③ 学部別の就職を希望する業種の割合



(2) 大分県出身者の就職意識について

図 2-④は、大分県出身者の大分県内での就職希望状況を示したものである。

「希望する」(41.5%)と「どちらかと言えば希望する」(24.6%)を合わせると66.1%となっている。しかし、「未定」も22.0%であり、大学での学びや就職情報の提供等による、大分県での就職の魅力に触れるカリキュラムの提供が求められる。

図2-⑤は、大分県出身者の県内就職希望を示したものである。

「希望する」、「どちらかと言えば希望する」が一番多いのが教育学部、次に医学部、福祉健康科学部の順に多くなっているが、雇用状況等との関係で県内就職に繋がるかは課題である。

図2-④ 大分県出身者の県内就職希望

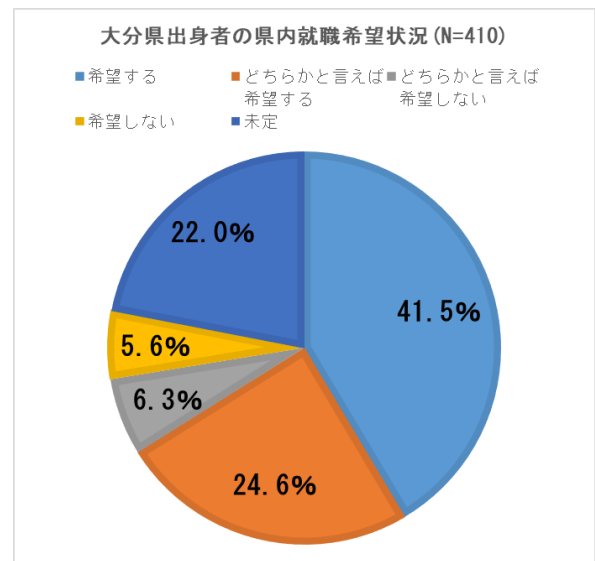
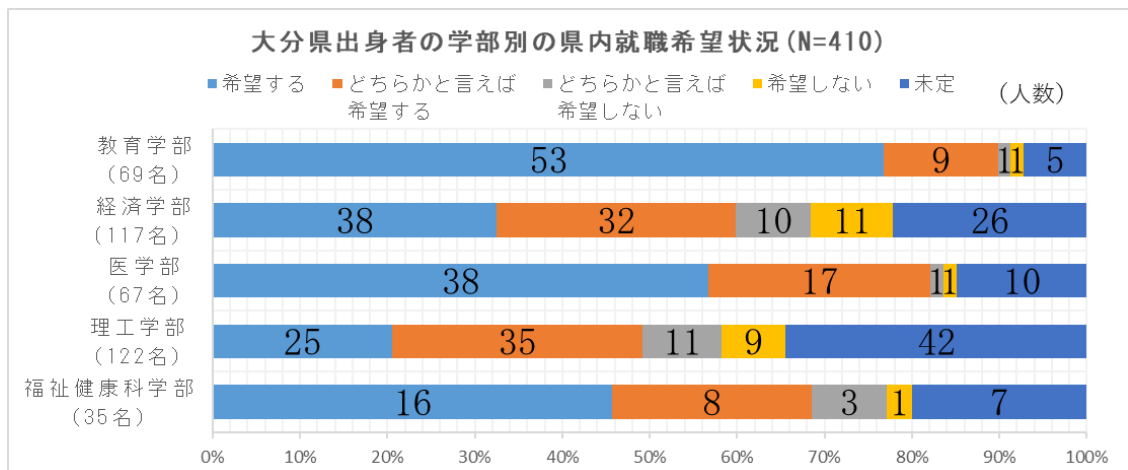


図2-⑤ 大分県出身者の学部別の県内就職希望状況

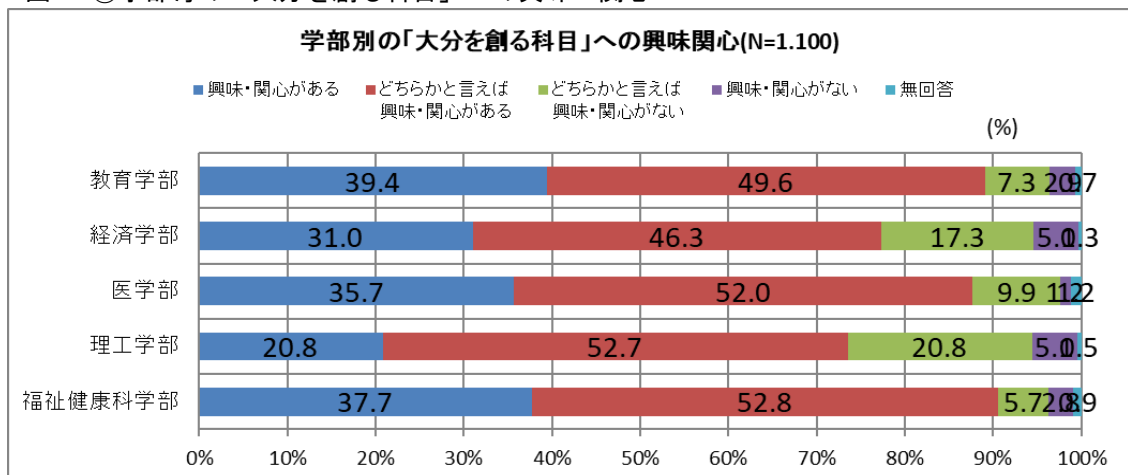


### (3) 「大分を創る科目」の興味・関心について

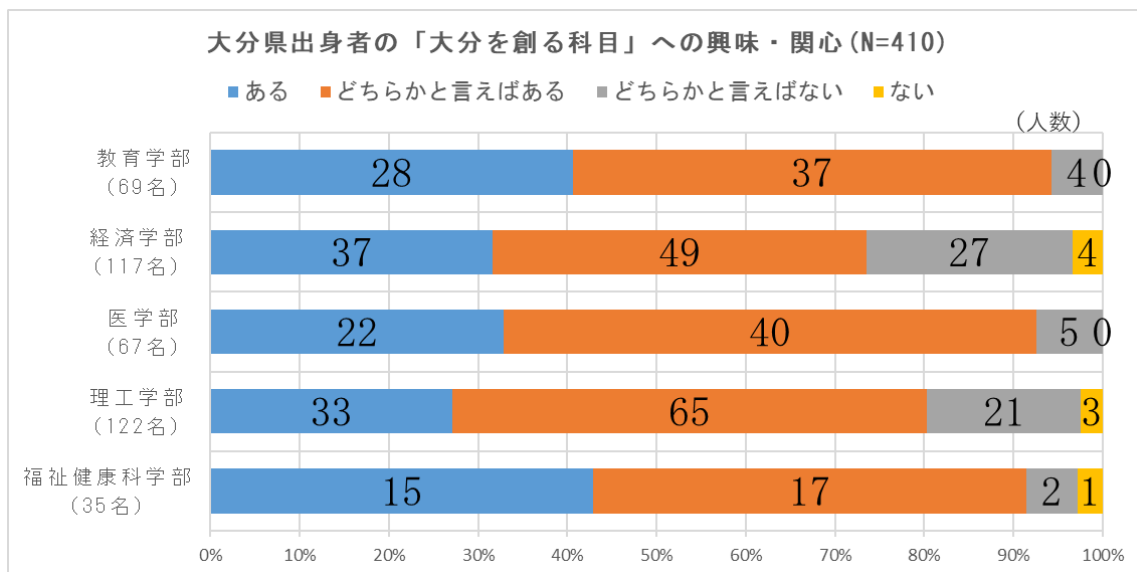
図2-⑥は、大分を創る人材を育成する趣旨の基盤教養科目として開講している「大分を創る科目」への学部別の興味・関心について示したものである。

全学部とも興味・関心は高く、特に専門性が高い教育学部、医学部、福祉健康科学部で高くなっている。

図2-⑥学部毎の「大分を創る科目」への興味・関心



<参考：大分県出身者の学部毎の「大分を創る科目」への興味・関心>

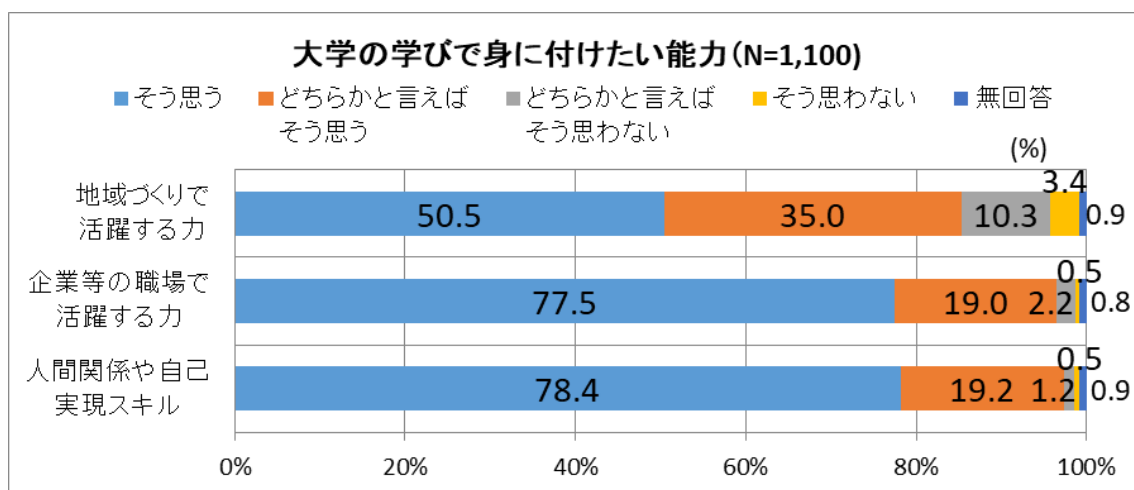


### 3. 大学で身に付けたい能力に関する項目から見る

図3-①は、大学で身につけたい能力と考えている力を示したものである。

街づくりや、地域産業づくりで活躍する力（以下、「地域力」という。）、企業等の職場で活躍する力（以下、「企業力」という。）を比べると、企業力に関する能力を付けたいと願っている学生の方が多い。また、人間関係づくりや自己実現スキルなど（以下、「汎用力」という。）を身につけたいと回答した学生は97.6%と多いことから、地域力及び企業力の基礎となる汎用力の育成が強く求められていることがわかる。

図3-① 大学で身に付けたい能力



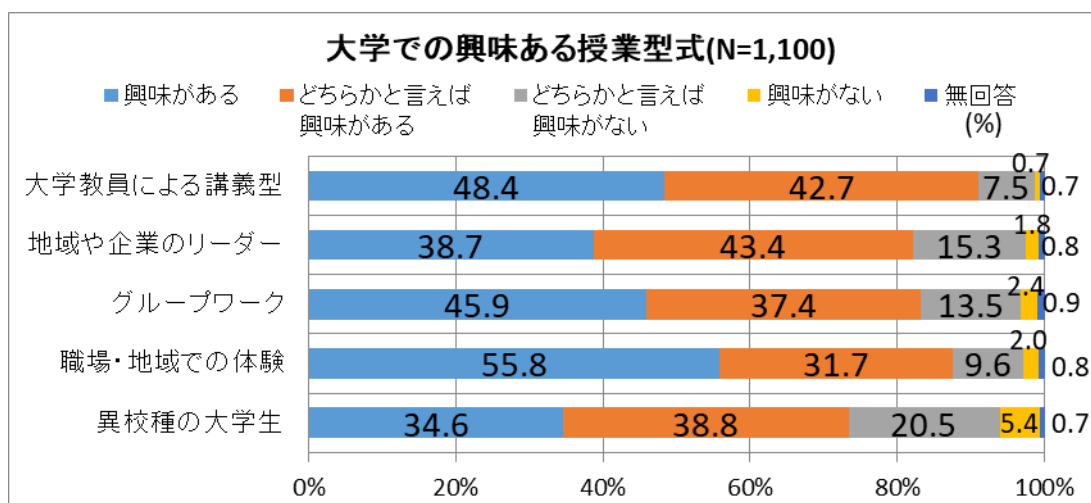
### 4. 大学での興味ある授業形式に関する項目から見る

図4-①は、大学での興味ある授業形式を示したものである。

他の大学の学生と一緒に受ける授業（「異校種の大学生」）は他の授業形式に比べて興味が低く、その他の授業形式は「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると80%以上が同じ程度の興味を示していることがわかる。しかし、「職場や地域での体験」については「そう思う」が55.8%と多い。また、高校までの授業と同じような「講義形式」の授業についても多くの学生が興味を持っていることに

については「受け身」的な要素も考えられるため、聞き取り等により、現在、高校で進められている職場体験の導入やアクティブ・ラーニングによる学びとの関係も関連しながら分析する必要がある。

図4-① 大学での興味ある授業形式



### Ⅲ. まとめ

本調査は、大学への入学者が何を学び、どんな力を付けたいのか、将来的にどこに就職し、どんな業種に就職したいのかなどについて、入学当初の意識を調査したものである。ここでは、COC+事業の目的に沿って、大分県内就職率の向上の視点から以下のようにまとめる。

大分大学においては、平成29年度の入学者の県内就職希望は30.4%であり、また、大分県出身者が37.2%という現状の中で、県内就職率を向上させるためには、大分地域志向の学生を育成するための具体的な取組が重要であると考えられる。しかし、単に「県内就職率52%にする」ということではなく、大分県内の大学で学ぶことによって、県内の企業や地域の振興に資する質の高い人材を育成する大学教育が強く求められていることを踏まえておく必要がある。具体的には、大分県内での就職に否定的な学生や、30%もある大分地域での就職に「未定」でも含めて、大分地域の魅力を感じ、大分豊じょう化への意識を培い、県内就職希望意識を醸成する学修を提供することが求められる。また、大分県出身者の「未定」も22.0%であり、大分県出身者についても、大分県の経済・社会の活性化に貢献できる「時代を切り開くイノベーション能力を持った人材」として活躍しようとする意識を醸成する学修の提供が必要である。併せて、魅力ある企業、活躍できる職場等の就職先の情報提供や企業等とのマッチング、就職優遇等の取組が求められる。

今後とも、平成28年度に考察で述べた「今後の大学教育は、大学（教員）が教育するという意識から脱却し、大学の研究や専門性と、地域や企業の現場の取組を組み合わせた教育が求められる。加えて、地域に有用な人材を着実に育成していることの評価等も含めて、大学の全ての部署と学部において、そうした教育活動を行うための教育改革を進めていくことが重要であると言えよう。」という考えを着実に実施していくために、本調査結果に関する検討を行うことが必要であろう。

<文責：大分大学COC+推進機構 特任教授 中川忠宣>